

平成30年度第1回教育振興審議会会議録

- 1 開催日時 平成30年8月6日(水)午後2時30分から午後4時40分
- 2 開催場所
花巻市石鳥谷町八幡4-161
石鳥谷総合支所 大会議室
- 3 出席者 会長 富士大学経済学部教授 藤原 忠雄
副会長 岩手県立花巻北高等学校長 菅野 慎一
委員 花巻市教育振興運動推進協議会長 永井 紳逸
委員 花巻市校長会中学校部会役員(花巻北中学校長) 吉田 靖雅
委員 花巻市PTA連合会会長(八幡小学校PTA会長) 青木 明希
委員 花巻市私立幼稚園協議会会長
(花巻みなみ・たかき幼稚園長) 照井 義彦
委員 (公社)花巻市青年会議所 理事長 遠藤 敦士
委員 花巻市法人立保育所協議会会長 中村 浩希
委員 花巻学童クラブ主任指導員 坂本 知彌
委員 社会福祉法人光林会理事長 三井 信義
委員 公募委員 千葉 栄子
委員 公募委員 瀬川 行夫

花巻市教育委員会教育長 佐藤 勝
教育部長 布臺 一郎
教育企画課長 岩間 裕子
学務管理課長 熊谷 直樹
学校教育課長 中村 哲
こども課長 今井 岳彦
文化財課長 平野 克則
教育企画課長補佐 佐々木英智
教育企画課係長 大竹 誠治

- 4 議事
 - (1) 副会長選出
 - (2) 報告事項
 - (3) 審議
 - ①花巻市教育振興基本計画平成29年度主要事業の実施状況について
 - ②花巻市教育振興基本計画実施計画(平成28年度～平成32年度)(案)について

5 議事

○岩間教育企画課長 それでは、会議の成立要件を確認いたします。本審議会の委員総数15名、現在、出席者12名でありまして半数以上の出席であります。花巻教育振興審議会条例第5条第2項の規定によりまして、本日の審議会が成立することを申し上げます。それでは、出席ということで御報告いただいておりますが、まだお見えでない委員もいらっしゃいますけれども、御案内の時間となりましたので、ただいまから平成30年度第1回花巻市教育振興審議会を開会いたします。

次第2、委嘱状の交付を行います。今年度新たに御委嘱した4名の委員の皆様へ委嘱状を交付いたします。教育長が皆様の前にまいりますので、菅野慎一様から順にお受け取りをお願いいたします。

(教育長より委嘱状交付)

○岩間教育企画課長 続きまして花巻市教育委員会教育長、佐藤勝より御挨拶を申し上げます。

○佐藤教育長 きょう大変お忙しい中、教育振興審議会に御出席いただき本当にありがとうございます。また新しく、委員を御承引くださいました花巻北高校の菅野校長先生、花巻北中学校の吉田校長先生そして市P連の青木会長様、そして花巻青年会議所の遠藤敦士理事長さん本当によろしくをお願いいたします。御案内のとおり、この教育振興審議会につきましては、花巻市の教育振興計画に28年度から32年までの5ヵ年計画のそれぞれの計画について、年度ごとにしっかり評価をして、そして、その評価結果をこれ法に基づいて、議会に報告するという趣旨のもとで進めておりますし、また、評価した内容について、それをさらに柔軟に翌年等の、計画等に反映していくということが大きな狙いで、開催させていただいております。本日は、平成29年度の主要事業の実施状況について、それから、それに基づきまして教育振興基本計画の実施計画についてということで、点検評価した内容について御審議いただくとともに、また改善について御意見をいただきたいというふうな趣旨で開催させていただいております。御案内のとおり、新しい指導要領が既に幼稚園では、本年度からもう実施になっておりますし、準じて再来年度から小学校、中学校そして高校というふうな順番でいって、いわゆる今後20年後、あるいはそれ以後を見通した形の指導要領の移行ということで、今、学校、教育機関は移行期に入っております。そういったふうな視点も含めながら、また、教育環境においてはさまざま少子化であるとか、さまざまな課題も生じておりますので、それぞれの点検項目、評価について、委員の皆様から忌憚のない御意見をいただきながら改善に努めてまいりたいというふうに思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○岩間教育企画課長 次第4、委員紹介に移ります。名簿順に御紹介をさせていただきます。お名前のみ紹介いたしますので、役職等はお手元に配付しております委員名簿で御確認をいただければと存じます。藤原忠男委員です。菅野慎一委員です。永井紳逸委員です。吉田靖雅委員です。青木明希委員です。照井義彦委員です。遠藤敦士委員です。中村浩希委員です。坂本知彌委員です。三井信義委員です。千葉栄子委員です。瀬川行夫委員です。本日欠席となっておりますが、佐藤勤委員、畠山忠弘委員、それから遅れての出席になるかもしれませんけれども、南川聖子委員が本年度の委員となっております。よろしくをお願いいたします。

続きまして、次第5、副会長選出でございます。会長、副会長は去年の審議会におきまして、

会長に藤原忠雄委員、副会長に下町壽男委員を選出いただきました。しかしながら、副会長の下町委員が3月末をもって御退職されたため、副会長が現在空席となっております。花巻市教育振興審議会条例第4条の規定では審議会に会長及び副会長各1人置き委員の互選により定めるとございます。皆様から御推薦があれば、お知らせいただきたいと存じますけれども、特にないということであれば、事務局のほうから新副会長について御提案させていただきたいと思いますが、いかがでございましょうか。それでは事務局一任という声がございましたので、事務局から御推薦をさせていただきたいと思います。事務局といたしましては、下町委員の後任となります花巻北高等学校の菅野慎一委員に副会長をお願いしたいと思っておりますが、いかがでございましょうか。

(「異議なし。」の声あり)

○岩間教育企画課長 ありがとうございます。異議なしということですので、副会長には菅野慎一委員をお願いしたいと思います。拍手をもって承認いただきたいと思います。ありがとうございました。

続きまして、次第6、報告事項に移ります。お手元の資料について御説明をさせていただきます。初めに、報告資料1について学務管理課より説明をいたします。

○熊谷学務管理課長 学務管理課の熊谷と申します。よろしくお願ひいたします。それでは、私からは報告資料1、児童生徒数の見通しについて報告させていただきます。初めに資料1、この小学校全体児童数の推移と今後の見通しについて説明させていただきます。まず小学校です。今年度平成30年度の児童数は黒塗りになっております4543名となります。昨年度は4670名で、127名の減となります。小学校の学級数についてです。資料の右側のほうに児童数、学級数をごらんください。平成30年度の学級数は、特別支援学級を含め、224学級となっております。現在の通常学級の編制基準についてですが、小学校1年生は国の基準で35人、2年生は県の基準で35人、3年生から5年生については、県の基準で35人あるいは、40人の選択制、6年生は40人となっております。複式学級もこの学級数に含まれております。特別支援学級ですが、特別支援学級は49学級ございます。224の中にこの49も含まれております。来年度以降の見通しについてです。下のほうに表として示しております。この、来年度以降の児童数についてですが、学区内の出生児数に当該校への平均入学率を乗じて作成しております。来年度は4463名今年度から80名の減となります。表でお示ししておりますように、6年後1番右側にありますが、平成36年度には4103名という予定になっております。今年度と比較しますと、440名の減となります。6年間で、ことしで言えば南城小学校が446名ですので、6年間でその南城小学校分が少なくなるという予想になっております。続いて資料1枚めくりまして、中学校全体のほうをごらんください。今年度、平成30年度の生徒数、黒塗りのところになります2580名です。昨年度は2638名で58名の減となっております。学級数については、右側のほうをごらんください。平成30年度の学級数は、特別支援学級を含めて、112学級となります。現在の中学校の学級編制の基準についてですが、県の基準ということで、全学年35人となっております。112学級のうち、特別支援学級は25学級です。来年度以降の見通しについてです。小学校と同様に学区内の出生児数に当該校への平均入学率を乗じて作成しております。来年度の生徒数は、258名、今年度から72名の減となります。1番右側にあります平成36年度になりますと、2144名で今年度と比較しますと436名の減ということで、やはり大きな減少ということが今後予想されるということがわかります。3枚目の資料は、小学校中学校全体を合わせた部分になっております。1枚目、2枚目が合わせた形になって

おりますので、後でござらんいただければと思います。以上、小中学校児童生徒数の見通しについて報告を終わります。

○中村学校教育課長 続きます、学校教育課の中村と申します。報告2の部分について以降、報告させていただきます。どうぞよろしく願いいたします。報告資料2、岩手県学習定着度状況調査結果、平成24年から29年度、花巻市分という資料をまずござらんください。岩手県では毎年、学習定着度状況調査というのを、小学校5年生、中学校2年生に対して行っております。あわせて、中学校、新入生1年生に対しても、テストを行っております。その結果をまとめたものが資料2ということでございます。平成29年度をござらんください。平成29年度、小学校5年生では国語、社会、算数、理科についてテストを行い、岩手県の平均、国語は63.6に対し花巻市が63.2ということでマイナス0.4。%というところで落ち込んでいるという部分については、色掛けで濃くなっております。そういうふうにして、そのほかの教科もござらんになっていただきたいと思っております。そうすると、その他社会、算数、理科、小学校5年生については、平成29年度は県よりも上回っている。中学生は、新入生テストということで、国語と数学とそれから英語やっておりますが、国語と英語については、若干、県よりも下回っている。それから、中学校2年生の部分では、国語、社会、理科が県よりも上回り、数学、英語については若干下回っているという結果になっております。これを経年比較ということで、現在中学校2年生、この学年について過去に振り返ってみますと、平成28年度新入生テストのときは、おおむね県平均並みあるいは、ちょっと上回っているという結果でしたが、さらに振り返って、平成26年度この、現在中2の生徒が5年生のときは、小学校5年生の段階では、かなりの部分で県の平均より、上回っておりました。逆に言うと、中学校に入ってきて、数学、英語を中心にだんだん下回ってきたという結果になっているという状況であります。県の学習定着度状況調査について以上、報告いたします。

続きます、平成29年度花巻市内問題行動概要、報告資料3をござらんください。ここには毎年実施しております問題行動調査5月1日付けの集計の表になっております。警察等の件数として挙げられるものが左側、平成29年度の欄に示されております。おおむね市内の生徒の問題行動については比較的ここ数年落ちついてきている状況にはあります。ただ、昨年度、29年度に関して言えば、喫煙の件数、それから、粗暴行為の件数が若干、昨年28年度より、増えている状況は見られます。それから、市内の交通事故の事故概要というところでございますが交通事故はそこにありますように小学校10件、中学校9件、合計19件ということで一番多いのは、自転車による交通事故ということで、傾向としては、横断歩道を自転車で左右確認しないで渡りながら、曲がってきた車と接触するという事故が割と多かったように記憶しております。大事故にならなかったのが幸いでございました。学校事故は、そこにありますようにいろんな場面で子供たちの事故が上げられております。続いて、花巻市いじめの認知件数ということで、平成29年度、小学校で143件、中学校で118件のいじめが認知されたというところでございます。これが平成28年度と比べまして、かなり多くなっております。この理由として、平成28年度からいじめの認知の仕方が定義的に大幅にいじめられた側の心情等に沿って、学校で認知をしているという改定が行われたという理由にもよるかと思っております。いずれ子供が同じような対応をされても、片方の子はいじめられた。片方の子がいじめたとは思わない。そういうふうなことであっても、いじめられたと言っている児童生徒に寄り添った形の数が計上された結果、そのように多くなったというふうに学校ではとらえていただいております。その結果、学校等から少し

このことについては、教育委員会にも報告ということで、上がってきたものが小学校で5件、中学校で2件というところですが、悪口とか、あるいは物隠しとかそういう類いの報告が委員会のほうには上がってきております。不登校については次の部分でまたお話をさせていただきます。

報告資料4、平成29年度不登校児童生徒の実態をごらんください。平成29年度の岩手県、全国のまだ数が確定しておりませんので空欄になっておりますが、1番下のところに、平成29年度花巻市の不登校児童、年間30日以上欠席した児童の数が12名、それから右に行って中学校、30日以上欠席の生徒が55名というふうになっております。これは、平成29年度の小学校の児童数が4670名中での12名ということですので0.25%、それから、中学校においては、2638名中55名が不登校ということで2.08%の割合で出現しているというものでございます。全国等におきましては、下の真ん中のグラフをごらんください。全国等においては年々不登校の小学校の数それから、中学校についても微増傾向にございますが、本市においては、小学校は、一旦上昇したものの今年度は、少し減っている傾向にございます。中学校については、やはり全国と同じように微増の傾向にございます。

続きまして学校保健統計、報告資料5、平成29年度小学校体力運動能力調査結果についてごらんください。2枚つづりになります。この調査結果は、色つきのグレーになっている部分について、岩手県、それから全国を上回っているという形でごらんになっていただければというふうに思います。小学校男子においては、特にも3年生については、多くの種目において全国、県を上回っている状況にございます。それから、女子についても、3年生、5年生、6年生を中心に全国、県よりもすぐれているという状況になっております。ただ、課題として50メートル走についてはどの学年も全国、県平均よりも落ちているという、これもまた顕著な傾向にあるというふうな結果になっております。裏をごらんください。2枚目、中学校の体力運動能力調査結果でございます。これによりますと中学校男子については、1年生、2年生と、おおむね全国、それから県よりも上回っている。女子については2年生、3年生が全国、県よりも上回っているというふうになっております。課題とすれば小学校とこれも全く同様でございますが、50メートル走がどの学年も下回っているという状況にあり、男子については、シャトルランと言って長く走る距離の部分、種目についても若干下回っているという結果になっております。以上簡単ではございますが、御報告とさせていただきます。

○今井こども課長 こども課の今井と申します。それでは花巻市公立保育園再編実施状況について御報告いたします。報告資料の6をごらんください。保育園の再編につきましては、平成28年3月に策定いたしました花巻市公立保育園再編指針に基づき、平成27年度から平成29年度までを計画期間とする第1期実施計画では、日城野保育園、南城保育園、湯本保育園の3園を民営化したところでございます。今年度策定いたしました平成30年度から平成32年度までを計画期間とする花巻市公立保育園再編第2期実施計画では、この第一次実施計画に基づき実施した民営化について保護者アンケートや保護者、移管先法人、市による三者会議等により検証を行い、民営化の進め方について改善を進めているところでございます。移管先保育園の概要でございますけれども、第2期実施計画につきましては笹間保育園1園を民営化の対象としております。選定理由につきましては、北上市に隣接地し後藤野工業団地への通勤ルートに近いほか、本市西部の主要道である県道盛岡和賀線沿いに位置し、全市的には、就学前児童は減少しているものの、市内中心部や市外に勤務する保護者が子供を預けやすいため、平成24年度以降5年間の平均で入所児童数42名、入所率93%となっており、今後安定して入所希望者が見込めることから、

選定してございます。この第1期実施計画策定の留意事項といたしまして、保護者が保育園入所希望を提出する前に計画を公表する。10月下旬に入所申込書を配布しますので、それ前に移管先法人を公表する予定としてございます。それから、移管先法人の選考審査の際、移管を希望する法人が運営する保育の現場を確認し、その内容を審査に反映させることとしてございます。それから、第1期実施計画では6カ月でありました引き継ぎ保育期間につきまして、第2期実施計画につきましては、1年間をとということで、丁寧な引き継ぎを行うこととしてございます。2枚目をごらんいただきたいと思います。今後の予定でございますけれども、7月2日に保育所民営化事業者選定委員会を立ち上げまして、民営化事業者公募要項及び民営化事業、事業者選定基準を審議して策定いたしました。7月11日には市内社会福祉法人及び学校法人を対象とした移管先法人募集説明会を行ってございます。そして、7月20日から8月21日まで期間で今募集をしているところでございます。今後は応募がございましたところから、法人のプレゼンテーションを実施していただいて、この選定委員会を経て、31年度の入所申し込み受付が始まる10月までには、市が移管先法人を決定することとなります。

続きまして、市内保育園、幼稚園、入園状況について御報告いたします。報告資料7をごらんいただきたいと思います。まず、保育園につきましては、公立保育園については、定員が679名に対して入所数が510名ということで、充足率が75%となっております。それから、私立ですけれども、認可保育所につきましては定員1593名に対しまして1643名ということで103.1%となっております。一方、幼稚園につきましては、公立は定員200名に対しまして、入所数が98名ということで、充足率は49%、それから、私立幼稚園は定員が1125名に対しまして606名、53.9%、そして認定こども園ですけれども、定員79名に対して54名、充足率は68.4%となっております。総合計といたしまして、定員3676名に対しまして、入所数が3000とび23名で全体の充足率は82.2%となっております。以上で報告を終わります。

○岩間教育企画課長 それでは、ただいま資料報告資料1から7まで、各課から報告をさせていただきました。この内容につきまして、御質問があれば承りたいと思います。御質問のある方は手を挙げていただければと思います。マイクをお持ちいたしますので、よろしく願いいたします。何か御質問はございませんでしょうか。はい。どうぞ。

○照井義彦委員 参考までに、資料報告資料4なのですが、不登校の生徒さんがたで、花巻市、石鳥谷とか4地域あると思いますけれども、ゼロの地域はあるのですか。各地区で必ず何人かいらっしゃるのでしょうか。ちょっとその辺、参考までにお聞きしたいです。

○中村学校教育課長 はい。学校別の報告というところで、今委員のお手元にはございませんが私の手元の資料によりますと、花巻地区、大迫地区それから石鳥谷地区、東和地区、29年度に限って言いますと、どこの地区でも小学校あるいは中学校で不登校の生徒が出現している。児童生徒が出現しているという結果にはなっております。いろんなケースがございます。不登校のきっかけがはじめであったり、あるいははじめを除く友人関係であったり、これは中学校で特に多い状況でございます。それから小学校では、先生とちょっと折り合いが悪かったというのも実際に3件ございました。中学校では、先ほどの友人関係のほうに続いて多いのが学業の不振、要は勉強が難しくなった。苦手である。なかなか取っつきにくいといった生徒が不登校になるきっかけが多い状況になっております。

○岩間教育企画課長 そのほか御質問等ございませんでしょうか。

○中村浩希委員 中村といいます。小学校の統合とか、中学校の統合なんていうのは予定あるのですか。

○岩間教育企画課長 はい。お答えいたします。現時点で具体的な学校の統合という計画はございませんが、本年度、学校の適正規模と適正配置に関する基本方針というものを策定する予定でありまして、この基本方針が策定になった後で、具体的に地域との協議を進めていく部分が出てくるものというふうに考えております。

○中村浩希委員 というのは、東和町は中学校1校、それから小学校1校というような状況なのですが、大迫とかです。ね石鳥谷とか、石鳥谷は統合されているのか、花巻はあんまり統合、花巻地区余り統合されていないような状況なのだけれどもそれでちょっとどういうふうな状況になっているのかなと思ったりして、聞いたところです。

○岩間教育企画課長 はい。実は本日の午前中に市長と教育委員によります総合教育会議の2回目が開かれまして、その場で、先ほど申し上げました基本方針案について、大まかに了承をいただいたということで、今後議員説明を経て、各地域での説明会に入っていく予定でございます。その中で、具体的に、それぞれの地域の実情を勘案して、こういう形での適正配置を進めたい、というような方針を示すことにしております。それを受けて、今後、具体的に例えばPTAですとか、地域コミュニティの方々とか、もっと広く地域の方いろいろ御参加いただいた上で協議をして、具体的な今後の進め方というものが決まっていくものというふうに思っております。現状でこの学校をどうこうという具体的なお話はちょっとできかねますので、御了解いただければと思います。そのほかございませんでしょうか。それでは、報告事項については以上で終了をさせていただきまして、これより審議に入らせていただきたいと思います。花巻市教育振興審議会条例第4条第2項の規定によりまして、ここからの会議の議長は藤原会長にお願いいたします。よろしくお願いたします。

◎藤原会長 ただいま挨拶をということでございますが、先ほどの報告資料の1で花巻市の児童生徒数が急激に減っているということ、あるいは報告資料の2では、学習定着度調査において小学校から中学校にかけて、ちょっと芳しくないというふうな報告がございました。実は私先週の木曜日、2日の日に、岩手大学で県内5大学メンバーが集まりまして、本県の大学進学率の向上についての会合がございました。また、翌3日の金曜日でございますが、花巻にあります総合教育センターで高等学校の免許更新の講師ということで、2時間お話をさせていただきました。その辺のところ、きょうの報告資料1、2に関連がありますので、少し時間をちょうだいしてお話をさせていただきたいとこのように考えております。本県の教育課題は、長い間、学力向上ということ言われてきております。全国の調査と比較しましても、小学校はよろしいが中学校になると急激に悪化すると言われてきております。これがなぜかということでございますが、私が教育センターに勤務していたときに八幡平市の教育委員会から要請がありまして、その調査についてかかわってほしいということで出向いて1年間かかわったところでございます。そしてその市のです、地区ごとの小学校、中学校の先生がたが、ペアになってですね、その家庭学習状況について意見を交換しておりました。小学校では、うちは市の方針に対してさらにこんな工夫もしている、こんなこともやっているという足し算のお話が多かったです。どんどん足していく。それに対して中学校になると、うちはこういう状況があるので、これはできませんでした。うちはさらにこういう状況もあるので、さらにこれもできませんでした。どんどん引き算の形になってしまう。段々、小学校と中学校の間に、大きな隔たりがあるということ

が明らかになってきたところでもあります。そこで平成21年、大分古いですがけれども、教育センターの中に長期研修生という制度がありまして、そこで全県調査アンケートしたところがございます。家庭学習は、どのようになっているのだろうかということです。そうしましたら小学校の場合は、自主学習ノートということで、2ページノートと言われてはいますけれども、自分で課題を見つけて2ページ勉強してくると。小学校の場合は先生が全教科教えていますから、何を勉強してきても、適切に対応できるかと思うのですね、それから国語ばかりやってくると「何とかちゃん、そろそろ算数もやったら」というふうなこともできるかと思えます。ところが中学校になると教科専門性ですので、例えば私は理科の教師ですが、数学は見られますが、英語とか国語と社会となってくるとちょっとということにもなりますよね。笑い話ですけど、2ページ、棒をびっちり書いてきたというのも報告されておりました。びっちり2ページです。何の教科だと聞いたら英語だそうです。笑い話ですが、第一人称 I (アイ) ですね。あと筆ペン買ったので自分の名前を2ページ練習してきちゃう。これでは家庭学習と言わないのですね。中学校になってですね。で、集中して勉強しなくてもいいようにということでもながら勉強が非常に大きいというふうな実態が明らかになっております。それでですね、一つ、宿題というのを教師が指定してそして点検をするというような宿題として、自主学習ノート、これは自主勉強というのと分けて、どれぐらいの割合で出されているかということ調査したところ、宿題を中心にやっている中学校は約2割でした。それから、1人勉強を中心に行っているのが45%、半数近くなのです。圧倒的に中学校でも1人勉強が多かった。それで、1人勉強は自主学習ノート、自主的にという言葉はいいのだけれども「実際に力にならないのではないか」というふうな声が聞こえますが、どう思いますかと中学校の教務主任に尋ねました。そうすると「効果がない」あるいは「どちらかといえば効果がない」という声が45%です。それから、5教科、英、数、国、理科、社会、高校入試にかかわる科目ですね、その先生がたに聞いてみたところ、何と63.6%、6割強の先生方が、効果がないじゃないかと思っているということですね。効果がないだろうと思われることをずっと進めてきたということで、この辺のところ、本県において中学校で急落する成績の実態が明らかになったのではないかとこんなふうに思っているところでもあります。それについて、やはりきちっと宿題を出していきましょうということで、方向が示されたところではありますが、もう一方でアンケートをとりますと、実は宿題をきちんと出そうとしても、教師が土日も含めてですね、スポーツ少年団等の活動で多忙を極めて難しいと、あるいは子供たちも同日大会、スポ小やって月曜日はもう仮死状態だというふうな実態もありました。それではということで次の年に、さまざまな専門家に集まってもらってシンポジウムをいたしました。スポーツ、スポ少が忙しくて宿題が出せない。子供たちはやらないという実態について、スポーツ少年団の本部長、当時、今もそうだと思いますけれども、谷藤さん。盛岡市長のお兄さんに当たる方ですよ。その方がこのように話されました。活動時間が長過ぎたり休みがなかったりするのはいくつかの理由。スポーツ少年団の加盟率は、小学校、中学校で見ると、岩手県は小学校26%、中学校に上がっても25%とほとんど変わらない。ところが秋田県並びに東北六県は、小学校37%本県よりも11ポイント多いと。非常に盛んにスポ少に入っている。ところが中学校になると3%だけだ。みんな中学校の部活動に移行してしまっているわけですね。実態、実態をいろいろ聞いてみますと、体育館が混んでいるので一旦うちに帰って夕食をとって、9時から集まって10時までというふうな、そういうスポ少もあるというふうなこともあります。そして親が迎えに来てそのあと、世間話でなかなか鍵が閉められないとかってというふうな実態も報告されております。やはり、岩手県も中学校になると部活動に移行すべきであると

いうふうに本部長さんおっしゃられました。遅くとも東北6県、ほかの県は6時半には子供たちは、家に帰っている。家庭学習ができる状況にあるというふうなことが話されております。さて次に、教育委員会、市の教育委員会は、小学校、中学校まで、幼稚園から始まってですね。ですが、高等学校そして大学というふうな視点で目を向けると、岩手県における大学進学率は、かなり低いということになります。多くは、高校終わって就職も多いのですが、専門学校へというコースも目立っているところでもあります。そしてまた、大学に進学しても岩手県に戻ってこない。戻ってこないということ、あるいは就職のときに、県外に出てしまう。ちょうど子供たちを次の世代を産み育てる、そういう若者はどんどんと県外に向かってしまう。この辺のところが、岩手県の人口減に大きくかかわっているのだらうと思うわけですね。出生率の高い低いということは、それほど変わらないと思いますけれども、そんなこと、そういうふうなこともありまして、岩手県の子供たちが大学に行くときには、できれば、県内の大学に入ると定着率が高くなるのかなというふうな話も、この間してきたところでもあります。また、岩手県の全体の人口も140万ということでしたけれども、このまま何もしないでいくと、34万とかですね、本当に少なくなって最大、減りが少なくなったとしても半分の74万ぐらいで推移するだろうというふうに言われております。また、地域創生論というのが本学富士大で週にいっぺん、前期行われましたが、そのときの質問にありましたが、ある期間をとると北上の人口減は2000人だと。それに対して花巻は1万人も減っていると。どうして花巻だけこんなに隣同士なのに減るのかというふうな話もありました。よく職場がないとかですね。それで、外に出ていくのだという言い方もありますが、現在、東芝メモリも花巻、北上エリアに進出してきている。ただ、なかなか、いろいろ条件もあるようでございますけれども、そういったもろもろのことを考えながら昨今、過ごしているところでもあります。きょうの中身にも、そういったところが出てこようかと思っておりますので、参考までに。以上をもちまして挨拶と代えさせていただきます。

それでは、次第7の審議に入ります。審議の1番、「花巻市教育振興基本計画、平成29年度主要事業の実施状況について」を議題といたします。事務局から説明を求めます。はい。部長お願いします。

○布臺教育部長 教育部長の布臺と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。それでは私のほうから報告をさせていただきます。着座して報告をいたします。それでは、まずお手元の資料、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書。こちらの報告書をごらんいただきたいと思ひます。1ページ目をごらんいただきたいと思ひます。まず、主要事業の実施状況について、というものでありますけれども、冒頭にありますように地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条各項の規定により、教育委員会はその権限に属する事務の管理及び執行状況について点検、評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表しなければならないこととされており、また点検評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。というふうに本日の審議の根拠となる部分がここに書かれております。法律の条文についてはこの1ページの中程に囲んでいただいております。こうした根拠法令に基づきまして、花巻市の計画であります。まず花巻市の1番の上位計画であります総合まちづくり計画というものがございまして、この中に花巻市の将来都市像というものがあるものでございまして、「市民パワーをひとつに歴史と文化で拓く笑顔の花咲く温（あった）か都市（まち）イーハトーブはなまき」というふうに掲げられております。この将来都市像のところには教育の基本目標というものがあるものでございまして、

まして、「～すべての市民が学び合い、たくましく生き抜く強さと、思いやりの心を育む“人づくり”をめざして～」 「郷土を愛し、丈夫な体と深い知性を持つ心豊かな市民が育つまち」これが当市の現在の教育基本目標であります。この目標を達成するために具体的に五つの政策分野というものが設けられております。子育て環境の充実、学校教育の充実、生涯学習の推進、スポーツの振興、芸術文化の振興と五つの分野ございますけれども、この後教育委員会の権限に属する3分野、子育て環境の充実、学校教育の充実、芸術文化の振興について、このように実施状況としてまとめているものでございます。なお、今年度から取り組みを始めるところでありますけれども、昨年度までのこの報告書には、決算額でありますとか、それから成果指標といった数値目標の報告が主でありましたけれども、やはり文章でどのようなことが実施されたのか評価をしたほうがわかりやすいだろうという意見がありまして、今年度からそういう視点での、評価を加えております。それでは2ページ目をごらんいただきたいと思います。まず「1. 子育て環境の充実」でございます。その下に基本方針として「子育てに喜びを感じ、安心して健やかな成長を育むまち」と掲げております。この基本方針のもと、四つの具体的な施策を掲げております。2ページの中程のところ「(1) 子育て支援の充実」でございます。ここから先、事業数が多いので、事業名と決算額を主にお話しいたします。新規事業については、補って説明をしたいと思います。まず地域子育て支援センター事業であります。決算額は4319万5000円。子育て支援情報ネットワーク事業、決算額2万円、放課後子供教室・学童クラブ、決算額2億1255万4000円、第3子以降保育料等負担軽減事業、3581万6000円。5にあります病後児保育事業は、29年度から新たに取組んだ新規事業でございます。傷病の回復期にある児童で保護者の都合により家庭で保育困難な児童を一時的に保育するというものでございます。決算額は859万6000円でございます。3ページに移ります。「(2) 家庭教育力の向上」家庭教育力向上事業、決算額45万4000円、家庭教育力向上事業、こちら保幼小の連続性を考慮した保育教育の推進、決算額16万3000円でございます。「(3) 就学前教育の充実」はなまき保幼一体研修事業、決算額6万円。幼稚園教育環境充実事業決算額8862万円。保育所保育環境充実事業、決算額4096万5000円。ここの事業概要の1番下のポツにございますが、昨年度、補正予算に計上いたしまして、小規模保育園施設整備「花巻ポラン保育園」を整備してこの4月から開園したところであります。これはいわゆる待機児童解消事業の一環ということで行ったものでございます。幼児ことばの教室事業、決算額724万3000円、こども発達相談センター整備事業、これは老朽化が進んでおりましたこども発達相談センターの新築整備を行ったものでございます。改築工事でございます。9639万円でございます。4ページをお開きいただきたいと思います。公立保育園再編事業であります。これはいわゆるゼロ予算事業でございます。先ほど、こども課から報告がありましたけれども、これは昨年度から検討を進めておったところでございます。幼稚園教育指導充実事業、28万7000円でございます。続きまして、成果指標でございます。子育てしやすいまちとを感じる市民の割合。現状値平成27年度の結果が55.7%でありまして、30年度の実績値といたしましては、58.3%というふうになっております。下の部分が先ほど申し上げました今年度から新たに表示を始める評価であります。安心して子供を産み育てることができる環境づくりを推進するため、待機児童の解消を最大の目標とし、民間保育施設整備への補助や保育士資格を有する方の再就職支援、子育て支援員研修などを実施したが、結果として、平成28年度に26人であった待機児童が平成29年度には96人に増加した。これは国が短時間就労の場合も保育所入所を認める要件の拡充を行ったことが原因と考えられる。このことは前述した取り組みが待機児童の増加の抑制につながったものと判断することが可能であり、今後も保育士確保策の推

進や保育施設の整備を行っていく必要がある。また、保護者が抱える育児に関するさまざまな不安を解消するため、病後児保育室の設置や老朽化したこども発達相談センターの改築のほか、地域子育て支援センターでの育児相談や子育て支援情報ネットワーク研修会の開催等に取り組んだ。このうち病後児保育室については延べ75人、昨年7月に開所しておりまして7月から3月までの数字でございますが、延べ75人の利用があり、保護者のニーズに対応した取り組みであったと考える。さらに、市の独自施策として第3子以降保育料等負担軽減事業を実施し、277人に対し補助を行うことで、多子世帯の経済的な負担軽減を図るなど、子育て環境の充実に向けたさまざまな事業を実施したことが成果指標の向上につながったものと思われる。続きまして5ページに移ります。学校教育の充実でございます。この基本方針は、子供たちが夢と希望を持ち、たくましく生き生きと育つまちと掲げております。具体的な施策に入ります。「(1)学力の向上」であります。学力向上推進事業は、決算額1596万6000円。学び交流学習事業、決算額22万5000円。指導運営事業829万5000円。教科用図書採択事業4万円。6ページにまいります。「(2)体力の向上」体力向上実践推進事業、決算額24万3000円。小中学校スポーツ振興事業、395万円。「(3)豊かな人間性の育成」児童生徒表彰事業52万5000円。生徒会ボランティア活動支援事業22万円。復興教育学校支援事業63万7000円。地域体験型学習事業589万7000円。国際化教育推進事業のうち、小学校国際理解推進事業842万6000円。同じ事業の中学生国際化教育推進事業1727万円。「(4)個に応じた支援体制の充実」特別支援事業6275万7000円。「(5)学校保健の充実」学校保健事業6170万1000円。「(6)教育環境の充実」小中学校区再編等調査事業34万円。私立高校振興事業324万円。県立大迫高等学校生徒確保対策協議会事業補助金85万円。小学校施設維持事業2億3179万円。中学校施設維持事業7159万6000円。湯口中学校校舎改築事業5億3876万1000円ということで、これについては平成29年度をもって事業完了したところでございます。大迫中学校校舎改築事業7億7928万円。8ページにまいります。学校安全確保事業、決算額48万円。育英事業150万2000円学校給食施設基本方針策定事業、こちら決算額ゼロでございます。大迫学校給食センター整備事業2億2770万8000円、これについては、29年度に完成をしたところであります。奨学金活用人材確保支援事業32万2000円。学校地域連携推進事業281万2000円小中連携推進事業6万3000円。学校図書支援事業245万6000円。9ページにまいります。成果指標でございます。将来の夢や就きたい仕事など具体的な目標を持っている児童生徒の割合、小学校の現状値が85%で実績値が88%、中学校の現状値が69%で実績値が76%。運動やスポーツが好きな児童生徒の割合、小学校が現状値84%、実績値が94%、中学校が82%の現状値に対して実績値が86%。自分にはよいところがあると思っている児童生徒の割合、小学校の現状値が78%に対して実績値が79%、中学校が現状値66%に對しまして実績値が76%。児童生徒の学力の定着状況、県平均を100とした場合、小学校の現状値が105で実績値が101、中学校の現状値が99で実績値が100でございます。学校教育の充実についての評価でございます。学力向上については、平成29年度岩手県学習定着度状況調査の結果によると、小学校では算数が前年度より2%上昇し、県平均と比較しても2%上回った。社会、理科も県平均を上回っており、国語を除いては、おおむね好ましい状況。中学校は国語、社会、理科が県平均を上回り英語が同等、数学は1%下回った。特に数学は前年度から3%下落しており、課題が残る。中学校外国語教育推進事業については、平成29年度から英語検定の検定料の助成を開始したところ、英検受験者数と、3級所持者数の割合が前年度の約2倍となり、生徒の語学力向上につながった。体力向上については、平成28年度に引き続き取り組んだ体力向上実践推進事業により1年目は短距離走のタイムや泳法の技術が向上したが、2年目は敏捷性や柔軟性に伸びが見られたほか、体育の授業以外の業間

や昼休みにも体を動かす児童が増加した。学習定着度状況調査によると、運動やスポーツが好きな児童生徒の割合は増加傾向であることから、基礎体力の向上を目指し、今後も体力、運動能力に課題を抱える児童が多い学校に重点的に取り組んでいく。学校における地域体験型学習やキャリア教育の実践は住んでいる地域をより深く知る体験を重ねるとともに、自己の将来を考え、職業感を醸成することで、児童生徒の自己肯定感、自己有用感が高まった。10ページにまいります。芸術文化の振興であります。基本方針は「市民が地域の歴史や文化、先人に誇りを持ち、芸術文化に親しむまち」であります。「(1) 芸術文化活動の推進」であります。学校文化活動事業、決算額47万8000円であります。「(2) 民俗芸能の伝承」民俗芸能伝承支援事業決算額228万1000円。次、(4)とありますが(3)と訂正いただきたいと思っております。「文化財の保護と活用」文化財保護活用事業、決算額1101万3000円。文化財保護活用事業の熊谷家改修事業。これにつきましては昨年度、28年度からの繰越事業で実施が29年度であります。熊谷家の地盤補強工事と屋根葺き替え工事を行ったところであります。決算額は5274万9000円であります。11ページにまいります。埋蔵文化財保護活用事業、決算額2902万5000円、展示活動事業978万3000円。教育普及活動事業202万7000円。成果指標、郷土の歴史、文化に対する誇りや愛着を持つ市民の割合は、現状値が62.5%で実績値が67.3%であります。芸術文化の振興についての評価、民俗芸能の伝承については、郷土芸能の保存を図るため、各種郷土芸能鑑賞会を開催しており、公演事業の入場者数は平成28年度1280人に対し29年度は1880人と増加傾向にある。特に古民家活用郷土芸能鑑賞会は熊谷家の屋根葺き替え工事後のお披露目を兼ねて開催したこともあり、例年より多い来場者であった。事業実施により伝承活動が確保されるとともに、観光イベントを創出し、地域振興にも成果があった。文化財の保護と活用については、文化財セミナーや自然観察会、埋蔵文化財講演会等を実施し、埋蔵文化財関係講座等受講者数は平成28年度の2315人に対して29年度は2151人だった。微減ではあるものの、目標指標の目標値1500人を大幅に上回っており、市民の文化財に対する関心の高さがうかがわれた。今後も文化財愛護意識の高揚を図るため、各種の鑑賞会や講座等を開催することとしている。博物館の入館者数については、平成28年度と比較して5000人超減少した。これは平成28年度の発明王エジソン展のような特別展を実施しなかったことによる影響と考えられる。各種講座やセミナーについては、調査研究テーマをわかりやすく説明したことや外部講師を招いたものに好評を得ており、参加者も年々増加傾向にある。博物館資料を活用した学習メニューの充実を図った結果、市内各小中学校で出前授業や見学学習を行う学校がふえた。これは学芸員が各校の担当教諭と連携を密に図りながら、共通で学べるものに加え、それぞれの学校の地域特性を盛り込んだ内容としたことで、興味や関心を高めたことが要因と考えている。今後については、常設展の展示内容をリニューアルするとともに、特色ある企画展の開催、博学連携の取り組みの強化により、さらなる魅力アップに努め、郷土の歴史文化に対する誇りや愛着を持ち市民の割合を高めていきたい。では12ページにまいります。こちらは各種施設の利用状況であります。まず学校開放事業であります。小学校については、総計で見ますと、平成29年度開放回数は6825回で利用者数が、17万3107人、前年度と比べますと開放回数が649回ふえておりまして、また利用者数も3872人ふえているところであります。一方、中学校でございますが、開放回数は4035回、利用者数7万7810人ということで前年度に比べますと開放回数で578回の減。利用者数で4810人の減となっており、小中学校合計では、開放回数は1万860回。利用者数25万917人、開放回数は71回増ですが、利用者数については938人の減というふうになっております。13ページにまいります。施設利用状況等についてであります。花巻市総合文化財センター利用状況であります。29年度は開館日数358

日で入館者数が3263人ということで、入館者数については、前年に比べて1777人の減となったところであり、大迫郷土文化保存伝習館利用状況であります。開館日数157日利用者数890人で、こちらは入館者数が175人増加しているところであり、石鳥谷農業伝承館利用状況であります。開館日数361日入館者数は1395人、増減は236人の減であります。花巻市博物館利用状況であります。開館日数360日入館者数、1万3950人。増減はマイナスの5242人であります。石鳥谷歴史民俗資料館利用状況であります。開館日数は361日、入館者数は1261人で増減がマイナスの167人でございます。東和ふるさと歴史資料館につきましては、27年4月1日から当分の間休館としているところであり、以上でございます。

◎藤原会長 はい。ただいま事務局から説明を受けました。このことにつきまして、質問あるいは御意見のある方、挙手をお願いいたします。それでは、私のほうからちょっと質問させていただきます。3ページ目のちょうど中ほどになりますが、幼稚園の、そうですね就学前の教育のところに幼稚園教育環境充実事業9000万という非常に大きな額ですが、三つの項目がありますが、そのうちどういうふうな割合といたしますか、内訳なのでしょうか。ざっとで結構です。8800万っていう決算ですね。

○今井こども課長 はい。お答えいたします。まず私立幼稚園のこの就園奨励事業につきましては、事業費で、約7300万となっております。それから、幼稚園の運営にかかわる部分ですけども、こちらにつきましては、約1300万となっております。それから維持修繕につきましては、240万ほどとなっております。

◎藤原会長 予想していたとおりで、内訳はやっぱり私立の幼稚園就園奨励事業に多くの金額割かれているだろうなと思っていましたけれども、これはどういうふうな事業になるのでしょうか。7300万ですか、約。

○今井こども課長 内容ですが、こちらにつきましては、幼稚園の保育料ですが、保育園の場合は所得に応じて保育料が決まるのですけれども、幼稚園の場合は所得に関係なく、保育料が園によって決まっております。そのため所得に応じて、いわゆる保育料の補助といたしますか、預ける方の負担軽減を行い、幼稚園に預けやすくするものでございます。

◎藤原会長 市で運営していた幼稚園が私立に切り替わることに伴う、費用ということではないのですか。

○今井こども課長 そうではありません。あくまでも私立幼稚園に対する幼稚園就園奨励補助という関係、性格でございます。

◎藤原会長 そのほかに、どうぞ。

○照井義彦委員 すみません。幼稚園の関係なのでちょっと一言、私立幼稚園へ就園奨励費は文部科学省のほうで幼稚園教育を盛んにするっていうので出た最初の補助金です。それが今こうやって、市のほうの御理解をちょうだいしながら、幼稚園のほうに保護者に対する補助金ですので、幼稚園の学園に来るのではなくて、保護者の経費負担という、そういう内容のほうが強い補助金です。

◎藤原会長 はい。よくわかりました。ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。

○瀬川行夫委員 大迫の瀬川です。あちこちで大変申しわけないのですが、二つお伺いしたい

と思います。一つは、放課後子供教室学童クラブの2ページですね。はい。これの経費が2億ということですから、恐らくは、ハードの部分が大きいのかなという気はするのですが、どういふことでこのぐらいかかっているのかというところが1点。それからもう一つは、飛んで申しわけございませんが、9ページ実は、私も学校にいたことがありますので、10年も前になるのですが、調査して、子供たちの自己肯定感が非常に低いということが、10年も前にありました。そしてやっぱりまだ向上が難しいのだなという思いでこの数字を見させていただいたのですが、自己肯定感が高くなるのに、キャリア教育が非常に有効だというふうなまとめがされているので。もっともっとこれに取り組めばよかったのかなという、いうふうな思いをしているところですが、キャリア教育が学校に入ってきたあたりは「すごく有効なのは、5日間やることだ。最低でも3日が必要だろう」というふうなお話でしたが、5日はいろんな学校の事情等もあって難しかったことを覚えています。したがって、最低有効な3日というふうな形で取り入れてきたのですが、現在もそういうふうな形が変わっていないのかどうかということと、それから連続でなくても、大迫中学校で取り組んでいるような、郷土学というか、総合的な学習で、繰り返し地元のことを学習していくというふうな部分も多分、有効なのかなとは思っているのですが、それらについて、何か把握していることがあったら教えていただきたい。この2点でございます。

◎藤原会長 はい。2点について御質問ありました。2ページの学童クラブとそれから自己肯定感9ページにかかわって。

○今井こども課長 はい。それでは、学童クラブの関係についてお答えいたします。まず、こちらの2億1200万ということですが、ほとんどが、いわゆる運営費ということでソフト部分、人件費を含めてという形になります。支援員さんがたの処遇改善とか、あとキャリアアップに対する改善、事業補助とか、そういった部分で、ほとんどを占めておまして、実際に学童クラブの施設の維持管理につきましては大体160万程度。修繕とかそういう部分については、エアコン入れたところで83万程度、ほとんどこの運営にかかる費用という形になります。委託になりますので、市からの委託料としては学童クラブに運営していただくということで、いわゆるソフト部分の費用となります。

○佐藤教育長 参考までに学童クラブは19ありまして、伺っているのは、小学生の大体25%ぐらいが利用しているのではないかと。

○今井こども課長 すみません。平成29年実績で1043人。児童数ですね、1043人、19学童クラブでとなっております。

◎藤原会長 それでは、9ページの自己肯定感についてお願いします。

○中村学校教育課長 自己肯定感について、岩手県学習定着度状況調査の質問紙調査によれば、自分にはよいところがあると思っている子供たちはその程度というふうにとらえております。これについて、キャリア教育の推進というふうなところで市のほうとしては、地域での職業体験というところで、地域体験型学習というところで小学校の総合的な学習の時間も含めて、中学校でもやっただいているというところで、確かに先ほど瀬川委員から5日以上続けたほうがいいという当初の文部科学省からの話があったわけですが、やっぱり現実的には難しい。また、学期中も難しい。できれば、もし可能であれば休み中とか、いうふうなところでのいろいろな工夫、取り組みの工夫とか、やってきたわけですがけれども現実的にはやはり、2日程度の学

期中の取り組みの学校、中学校が多いというのが現状でございます。その上で、本市においては、先ほども言いましたように小学校から、そういう地域での体験学習、職業も含めた体験学習をできるだけやってほしいということで、30年度においては地域体験型事業等も含めてキャリア学習と体験学習というところで事業を展開するようにしております。先ほどもちょっとありましたが、大迫では、ワインづくり体験を継続して行うなど、非常に特色ある取り組みをしていただいております。そういうものを参考にしながら、ほかの地域でもいろんな体験を進めていただければというふうに思っているところです。

◎藤原会長 よろしいでしょうか。よろしいですか。はい。そのほか、

○中村浩希委員 中村といいます。先ほどの関連質問になると思うのですが、地域体験型学習ってというのは、体験するっていう小学校でもってというような話でしたが、中学校、実はこの間、中学校2年生なのですが、職場体験ということで、2日間ほど来たのです。大変いいことだと思うのですが、1年、3年と各学年でやったらどうかと、1回、中学校2年生で1回やってそれで「別のことも体験したいな」というようなこともあるのではないかと思います。できるのであれば、学年単位でやればいいかなと思ったところです。

○中村学校教育課長 はい。お答えします。ありがとうございます。そのような地域の方々の理解があると非常に学校としては、やりやすいのかなというふうに考えております。ただ、一般的に多くの学校での現状ということでお話しさせていただきますが、1年生等では、職場見学というところでの体験学習、それから2年生での職場体験、実際にその職場に行つての働き、実際に病院とか、あるいは商店とか行って実際に働かせてもらって、3年生になって修学旅行等で東京での、そういういろんな、またさらに視野を広めたいろんな企業等の見学と、そういうふうな段階を踏んだ、今、職業についての経験、体験学習を進めているのが一般的な県内全体での状況であります。なので、その地域を3年間続けてというところがまだまだ少ないなというところは、実際に感じているところでございます。

○中村浩希委員 はい。わかりました。つまり1年生のときもやっているわけですね、たまたま保育園に来なかったっていうだけの話で。

○中村学校教育課長 花巻というか、近隣の盛岡に実際に行つてですね、盛岡の施設にお願いしている場合もございます。いろいろそこは学校によって、いろんなケースがございます。

◎藤原会長 中村委員よろしいですか。そのほかいかがでしょうか。三井委員どうぞ。

○三井信義委員 最後の13ページのところに施設利用状況等ということで、入館者数が毎年のように、それも大幅に減少している状況があるかと思うのですね。何か毎年報告受けるとなんか毎年大幅に減っているというイメージがあるわけですがけれども、それについての対策ももちろんいろいろ考えていらっしゃるのしょうけれども、ちょっとそこら辺をどういうふうに考えていらっしゃるのかお聞きしたいということと、もう一つ、たまたまここに史跡じゃーにーという石鳥谷中学校の校外活動で、地元のいろんな史跡を回つて歩くという、取り組み、去年とことしですが、やられたということで、私のところにも来たのですが、たまたまその資料をちょっとお借りしたら大変おもしろいのですね。本当に地元の地域にどういう館があったとか街道がどうだったとか、一里塚がどうだとか、渡し船がどうだとか、そして、戦のあるとき武士はどんなことしていたのかとか、ない時はどうだったとか、すごくおもしろい資料で、我々

も引き込まれるような、そういった中で博物館の活用等も行っていろいろやったりとか。ですからやっぱりそういった、こうちょっといろんな工夫とか企画次第では、もっともっと、こういったすばらしい施設がいっぱいあるわけですから、何とかこう、もうちょっと活用していただけるような工夫を考えていただければいいのかなという感じがしましたので、よろしく願いいたします。

◎藤原会長 今の三井委員のお話は、要望ということでよろしいですか。あと、私もちょっと今に関連してですけれども、前年度、今年度という、28年、29年で増、減という形ですけれども、これがたまたま去年よりふえたとか、減ったということもあるのですが、ここ数年間のグラフ化ですかね。そんなほうがわかりいいのではないかなと。ボツンとことしが下がったって言うけれども、いや、一昨年と同じだと、去年がたまたま上がっているということもあろうかと思うのですね。3年、4年間分くらい資料、特にこの計画のスタートの段階からですね。5ヵ年計画ですので。平成28年度からのやつを出していただければいいかなと思いますが。これも要望です。私のほうから7ページちょっとお願いできますか。7ページの「(6) 教育環境の充実」の2番、3番についてちょっとお伺いしたいと思います。私立高等学校に関する助成ということで、花巻東高校が該当すると思いますが、324万円とこれは、ほかのところでも、盛岡市等でもあるかと思えます。3番目のところですが、大迫高校の生徒確保対策の事業に対する補助金なのですね。ほかのところはよく通学バスで1万円を超えた分については、補助しますよとか、あるいは半額バス賃を補助しますよというふうに、高校生、家庭そういったところへの助成ということはよく耳にしましたし、そういうことによって市町村によっては「うちの高校は県立だけれども町立高校のつもりで支援しているのだ」というふうな言い方もされているところもありますけれども、高校の場合は、存続に取り組む団体への助成というふうなことになって、県内のほかの地域とちょっと趣が異なるかなと思うのですが、実績値決算額が85万円ですか、減っておりますけれども、どういうことなのでしょう。

○岩間教育企画課長 はい。お答えいたします。今、会長からお話があったような、ほかの高校と大迫高校の1番の大きな違いと申しますと、花巻市内に県立高校がそのほかにも複数あるというような状況で、市が大迫高校の生徒確保のみに直接お金を出して支援という形は、やはりちょっと難しいということで、団体がありますので、そちらの団体の活動として、その団体が実施する事業の一部、市が補助をするという形をとらせていただいております。その団体がやっている事業の中で最も大きいのがスクールタクシーの運行でございます。大迫はJRの駅がそばにないということで、バス通学それも本数が限られるというようなことがありまして、タクシーを運行しております。そのタクシーを利用する生徒さんに対して、JRの定期を負担する割合と同等になるようにという程度で、支援をさせていただいているのが1番大きな事業でございます。その全体の事業費に対して、市で一定割合を団体さんのほうに支援をすると、あとそのほかに団体さんのほうでは同窓会ですとかPTAからも、そういうような補助金をもらって、それを合わせて団体として生徒確保の事業を進めていただいているというようなものでございます。

◎藤原会長 わかりました。そうしますとスクールタクシー、バス代に代わってスクールタクシーということですが、それが85万円を超えていて、85万円分を補助するとそんな形で考えてよろしいですか。はい。わかりました。それから、ちょっともうひとつお願いします。8ページの中程、12番ですね、奨学金活用人材確保支援事業ということになっております。これにつき

ましては、本学、富士大学で地域創生について、花巻市長さんも登壇されてお話をされたときに、市内の大学、富士大学になるわけですが卒業した後に、花巻市内に居住した場合には、奨学金の半額が返還要らないよということを声高々に宣言いただきまして、大変ありがたかったのですが、総額は71万9000円、しかももう一つの事業とあわせてということ。また、実際には使われたのが32万円という額はそれほど多くはないかなと。それからまた、本学でも、地域定住、先ほどお話しさせていただいた、挨拶させてもらったように、県内からの比率がここ3年間で、28%岩手県だったのが39%、ことしは42%というふうに非常に岩手県からの、入学者がふえております。そしてまた、一例を挙げますと花巻東高校からは、5名から10名というふうに倍増したりして、非常に花巻市内からの入学者も増えてきているのですが、この金額を見ますとこの制度が十分にまだ浸透していないのかなというふうな懸念もされるわけですが、人数とか、これはどういうふうな制度で、そして就職を花巻市内にしましたよといった段階で、まず奨学金借りていなきゃならないのですね、借りていて、そのうちの半分は返さなくてもいい。そういうふうなことかと思うのですが、どんなものなのか人数とかですね、この規模が非常に小さいように思うのですが、いかがでしょうか。

○熊谷学務管理課長 はい。ありがとうございます。お答えしたいと思います。まず、奨学金の制度につきましてですけれども、先ほど会長からありましたように、まずは、高校であるいは大学のところで、奨学金をまず借りているということが1番の前提になります。その上で、人材確保支援事業といたしましては、ふるさと保育士確保事業ということと、あとはふるさと奨学金定着事業補助金ということで、今言いましたように、市内の大学、市内大学を卒業して市内に定住している者、保育士については、市内の認可保育園に保育士として勤務している者ということになっております。この制度が始まったのがまだちょっと、28年度、29年度ということでございまして、まず奨学金を借りる段階で、その制度がまだ設置されていなかったということ。あとはやはりその人数がこの通り少ないという状況ですので、現段階としてやはり、PR不足とこちらのほうでも感じております。ですので、まずその奨学金を借りていただく段階でのPRと、あとは大学のほうに伺って、あとは、保育士の育成とやっぱりPRしていかなければいけないなと思っている状況でございます。人数のほうですけれども、7名ですね、あわせて7名ということになっておりましたので、はい。

◎藤原会長 はい。ありがとうございました。ほかにございませんか。坂本委員どうぞ。

○坂本知彌委員 お礼を申し上げたいと思います。去年のことですが、法人立保育園主催の教育講演会に学童クラブの職員もお誘いをいただきました。テーマは食育だったのですが、竹内先生の食育の話でものすごく感銘を受けました。大ホールにいる観客のほとんどが号泣だったのです。それで、私どもも非常に感銘を受けて、やっぱり食育が大事だということ、学童の保護者とも相談しまして、食育の勉強会をしました。早速、人数が90人もおりますものから、一斉に料理教室なんてことは難しいので文化会館でおにぎりのつくり方を。それで、農協さんに御飯を頼んで、御飯にまぜまぜをして、そしておにぎりを作るとか、そしたら、花巻の栄養士さんだったのですが、チーズとかなんかいろんなこうちょっと「これ、合うの？」って思うような発想で考えてくださいます、とってもおいしく子供たちも、大喜びで、それから自分でおにぎりをつくって持ってくるってところまで来ました。お弁当を詰めるようになりましたとか、やっぱりそういうふうなお誘いをいただかなければ、そういうことはなかったもので、幼保小の連携のところにもまたお声をかけていただきたいと思います。よろし

くお願いいたします。

◎藤原会長 はい。よろしいですか。はい。そのほかございませんか。菅野委員。お願いします。

○菅野慎一委員 せっかくの機会ですのでちょっとお話しさせていただきますけれども、本当に幼稚園から義務教育、そして生涯教育までいろいろと幅広くいろんな部分で焦点を当てていただいて御苦労さまです。というふうに言いたいところですが、やはり私が注目すべきは、学力向上のところがすごく興味関心があります。特に先ほど報告資料に載っておりますけれども、小学校の5年生でかなり高いレベルにあるものが、中学校2年生になるとぐっと下がってくると。これは岩手県全体の傾向でもあるわけですが、それに対して、藤原会長から1人勉強ノートというふうなところとか、宿題の視点でのお話、お聞きいたしましたけれども、5ページですね、学力向上推進事業というふうなところで、市のほうとしてもさまざまな対応を打っておるようがございます。それで、この中学校サポーター配置とか、授業力向上支援の外部講師による模範授業とかといったものの具体的な内容をお聞かせ願いたいというふうに思います。例えば、どういった層に焦点を当ててこの支援策打っているのか、そういったところも含めてですね、説明いただけると助かります。よろしくお願いいたします。

◎藤原会長 はい。よろしいですか。

○中村学校教育課長 中学校サポーター配置に関しては、そこにありますようにまず30人を超える学級ということで割と人数の多い学校、今、29年度で言うと花巻中学校、花巻北中学校、石鳥谷中学校というところに、その免許を持った具体的には数学ですけれども、そういう方をT2という形で学級のほうに入らせていただいて、T1、T2、TTの事業を進めていただいているという状況でございます。それから、外部講師による模範授業、講義の実施ということですが、これは平成29年度、紫波の赤石小学校の阿部勲^{ことひさ}先生という方、この方ですが、小学校で一生懸命、外国語教育について非常に先進的に取り組んでいらっしゃる先生でございました。その方に若葉小学校のほうに行らせていただいて、模範授業をしていただいたという事業でございました。いろんな形で今年度も、小学校の外国語については非常に注目もされていますし、先生がたも研修したいという声、要望が多いので、まずそういうところから学校に入らせていただいていろいろ勉強していただいているという状況でございます。

◎藤原会長 ここで学力向上ということですが、中学校の立場で、吉田委員さんいかがでしょうか。

○吉田靖雅委員 本校でもサポーター配置いただいております。数学で1年生に入っています。1年生のときにT2が入ってきてくれるおかげで、底辺を下げない。できるだけ下げないで2年生に上げられるなっているのが、ここ3年間やってみての感想です。3年生になって入試だからといって、3年生に配置するよりも1年生のときに、ある程度底上げをしておけば2年、3年は予想よりも下がる人数が少ないなっているのはここ3年間の感想です。ですので、本校にとって非常に役に立っております。ありがとうございます。

◎藤原会長 教育長に御発言お願いしたいです。

○佐藤教育長 今、学校教育課長から説明いたしましたけれども、やっぱり算数、数学というのが花巻弱いのです。小学校のほうで比較的よかったのが、中学校のところで、つまり、躓い

たままいっているという状況。これがやっぱり1番大きいのだらうと思います。それからもう一つやっぱり、できる喜び、問題を解決する。そこまでやっぱり個別の指導というのが、少し弱いのだらうなど。それから家庭で問題を何回も復習してみるとか、あるいは解いてみると、そういうところだというふうに思います。それで、学習定着ワークとかいろんなことやっていますが、市として学力向上のアクションプランっていうのを立てて数値化しておりますし、それに基づいて、各学校のアクションプランっていうのを立てていただいて、一つは授業改造それから、やはり個に応じた指導、それからもう一つは家庭学習ということでやっていただいております。それで先ほど県の学調、平成29年度の子供たちのいわゆる中2の数学、これはことしの4月の全国学調、これでは県の平均は上回りました。ただ、やっぱり全国の平均には、ちょっと足りないということで、各学校でいろいろやっていただいておりますので、そういったコツコツとした積み重ねっていうのが少しずつよくなっている。ただ、一方で全体に弱いということです。それで今、各小中学校では、次は小中連携ということで、今、家庭学習スタンダードというものを小中連携した形で今取り組んでいただいております。ただ、まだまだもう少し頑張らなくちゃいけないということと、それから成績見るとやっぱり上位の子供たちもいる反面、下位のつまずきが多いということで二極化しているっていうことがございます。それで、やはりもっともっと支援の仕方を考えなくちゃいけないのですけれども、ここには出ておりませんけれども、いわゆる普通学級にいて、発達にちょっと困難性を抱えているような子供たちに対しても学力を支援しなくちゃいけないということで、そういった子供たちに対する、市ではふれあい共育推進員という制度なのですが、そういった非常勤の方、実は43名も配置しているというようなことでやっているのですけれども、もっともっと支援の仕方、それから勉強でわかる喜び、それからやっぱり算数、数学に関する指導力、こういったことについての充実は、もっともっと強化しなくちゃいけないと思っております。あるいは、小学校でも今、いわゆる小人数指導あるいは習熟度も取り入れておりますので、その辺の指導の工夫というのが、もっと思い切ってやっていかなきゃいけないなど。そういったふうな課題がございます。

◎藤原会長 はい。ありがとうございます。県学調の場合ですね、県に対して平均より上回ったかどうかというふうな比較になると思うのですが、一方で、全国でもやっておりますので、これなかなかデータとして出すのは難しいということもあるかと思っておりますけれども、教育委員会のほうではそういったものも十分検討されているかと存じます。その辺のところをベースにしながら、学力がどうなっているのかというあたりも今後とも検討していただければと思います。大分時間も押してまいりました。いかがでしょうか。はい。お願いいたします。

◎永井紳逸委員 12ページの、学校開放事業ですけれども、花巻中学校と西南中学校が大幅に29年度は利用回数、人数が減っているわけですけど。学校開放の利用者っていうのは、クラブ活動、スポーツ少年団活動の方々の利用が主な数字ですか。そして、減ったっていうのは、休養日をとりましょうという運動か何かをやったためでしょうか。その辺、把握していますでしょうか。

◎熊谷学務管理課長 今、学校開放事業について、特に花巻中学校、西南中学校のところで昨年度に比較して減少しているというお話ありましたけれども、特に西南中学校のほうなのですが、今まで、クラブ活動の後の父母会練習まで含めて、このデータを記録していたものを平成29年度については、社会人等の団体に対する利用人数に修正したため、減ったものです。

◎藤原会長 はい。そのほかよろしいでしょうか。

○照井義彦委員 4ページですけれども、そののところにいわゆる子育てしやすいと感じている人のパーセントでちょっと気になるのが100%で、全員になるのでしょうかけれども、4割近くの方が子育てしやすいと感じていないっていうところが、これからなんか大事になってくるのかなと。あるいは子育てしやすくないっていう意味で、あるいはここにありますように指標が待機児童だけでいいのかどうか、そのほかのところの要因が何かあるかなっていうもので、ちょっと、質問をさせていただきます。

◎藤原会長 ポイント上がっていますが、まだまだということですかね。事務局お願いします。

○今井こども課長 はい。大変難しい問題ですね。確かに今、やっぱり待機児童数は大きな影響があるかと思えます。この中で、このアンケートの残り4割っていうところですね、実際に、今子育てしていない方とかも含まれていたりとか、そののところの分析や検証は、やっぱり確認していかなきゃならないと思っていますし、やはり先ほどのところにあるとおりですね、待機児童数が今、過去最大でということは、やはりこれは少なからず影響しているのかなと考えてございます。

○佐藤教育長 ちょっと補足します。実は市でいろいろ子育て支援ということで、全部でいうと、170ぐらいの事業やっていますのですけれども、やはりPRが下手だっているのがあります。つまり、赤ちゃんがおなかに入った時期からずっと一貫した事業っていうのが、さまざま例えば将来的な奨学金とかあるわけなのですが、そういったことについて子育てガイドブックというのをつくっているのですけれども、冊子になっていて、それが浸透しないっていうこと、それからホームページは出しているのですが、なかなかごらんいただけないということで、また広報でもちょこちょこ出しているのですが、なかなか広報も読んでいただけないというようなこと。もう少しダイジェスト版のものを、身近なところにおいてPRするというようなことで、また、例えば妊娠の時から、あるいはもっと早く高校生ぐらいのときから、そういったことをPRして、市でこういうことやっているのだよ、こういう困ったときにはここが窓口だよっていうことをやっぱり一体化してPRすることが大事だというふうに思います。それで市民の割合でいうと、やはり4割ぐらいの人がそう感じてないというふうなことで、そういったことから早い時期からのお知らせというものをしていかなきゃないということ。それからあとどういった点で子育てしやすくないのかっていう、例えば、よくいろんな意見を聞くと、親子で休みの日に遊べる場所がないとか、実はないわけじゃないのですね。これも御紹介の仕方だというふうに思いますし、それから、何かあった場合に相談もできるようなこどもセンターの存在とか、実は市内4カ所あったりして、そういったことのPRがやっぱり私どもが下手だと。届いていないということが、これがやっぱり大きな理由かなというふうに思っております。

◎藤原会長 はい。ありがとうございます。アンケートの場合「しやすいまちと感じる」っていうのが6割としたときに、どちらでもないっていうのも入ったりしていますので、必ずしもその残り4割が全てよろしくないと言っているわけでもないかなと。そういうアンケートの、取り方もあろうかと思えます。

大分時間押してきました、司会まずくて申し訳ありません。そろそろよろしいでしょうか。はい。ではお諮りいたします。花巻市教育振興基本計画平成29年度主要事業の実施状況につきまして、御説明のとおり決することに御異議ございませんでしょうか。

(「なし」の声あり)

◎藤原会長 よろしいですか。はい。ありがとうございます。それでは急ぎまして、続きまして審議事項の(2)でございます。花巻市教育振興基本計画実施計画、平成28年から32年度案につきまして、議題といたします。事務局からお願いします。

○布臺教育部長 それではお手元の資料、花巻教育振興基本計画実施計画案を御参照いただきたいと思ひます。先ほどまでの御審議では、平成29年度の実績、決算額、評価について御説明をいたしました。これから審議していただく実施計画については、平成30年度、今年度の事業費がどのようになっているかということ整理したものでございます。4ページをお開きいただきたいと思ひます。「(1)子育て支援の充実」地域子育て支援センター事業、30年度事業費は4372万5000円。子育て支援情報ネットワーク事業3万円。放課後子供教室・学童クラブ2億6273万2000円。第3子以降保育料等負担軽減事業3836万8000円。病後児保育事業1132万2000円「(2)家庭教育力の向上」保護者への意識啓発の分は46万6000円。保幼小の連続性を考慮した保育教育の推進は18万円。5ページにまいります。「就学前教育の充実」花巻幼一体研修事業27万4000円。幼稚園教育環境充実事業9467万9000円。保育所保育環境充実事業7046万9000円。幼児ことばの教室事業733万4000円。こども発達相談センター整備事業、1062万8000円。公立保育園再編事業、10万8000円。幼稚園教育指導充実事業31万2000円であります。6ページにまいります。「学校教育の充実」学力向上推進事業1771万3000円。まなび交流学習事業23万円。指導運営費1025万1000円。教科用図書採択事業434万7000円。「(2)体力の向上」体力向上実践推進事業22万5000円。小中学校スポーツ振興事業365万円。7ページにまいります。「(3)豊かな人間性の育成」児童生徒表彰事業93万6000円。キャリア学習支援事業703万7000円。小学生の国際化教育推進事業2077万2000円。中学生の国際化教育推進事業は1955万6000円「(4)個に応じた支援体制の充実」特別支援事業6651万3000円「(5)学校保健の充実」学校保健管理費6590万6000円。「教育環境の充実」小・中学校区再編成等調査事業15万円。私立高校振興事業324万円。県立大迫高等学校生徒確保対策協議会事業補助金106万4000円。小学校施設維持事業8145万5000円。8ページにまいります。中学校施設維持事業2437万6000円。大迫中学校校舎改築事業9874万4000円。学校安全確保事業217万円。育英事業217万円。仮称学校給食施設整備事業、こちらは現在、学校給食施設基本方針を現在定めているところでありますので、こちらの事業費としてはゼロでございます。奨学金活用人材確保支援事業を56万5000円。学校地域連携推進事業266万円。小中連携推進事業11万3000円。学校図書館支援事業254万7000円。小中学校情報ネットワーク強靱化事業、これは30年度新規事業でございます。学校における情報セキュリティ対策と教職員の多忙化解消のため、グループウェアの導入をはじめとしたネットワーク環境の再構築を行うというもので、事業費5452万円を予定しております。9ページにまいります。9ページは市の組織としては生涯学習部のほうで実行している事業になります。「生涯学習の推進」は「市民が、生涯を通じて学び、広い視野を持って活動するまち」を基本方針として掲げております。「(1)生涯学習の充実」生涯学習講座開催事業費2226万7000円。生涯学習活動支援事業679万円。読書活動推進事業736万4000円。花巻図書館整備事業109万6000円。「(2)青少年健全育成の推進」青少年活動推進事業282万2000円。少年センター運営事業363万円。「(3)国際化の推進」国際都市推進事業1825万1000円。国政姉妹都市等交流推進事業1546万1000円。国内友好都市交流推進事業170万2000円。10ページにまいります。「スポーツの振興」基本方針は「市民が、いつでも、どこでも、いつまでも、気楽にスポーツに親しみ元気に活動するまち」と掲げております。「(1)生涯スポーツの推進」地域スポーツ推進事業1669万7000円。地域スポーツ支援事業2361万6000円。スポーツ施設環境整備事業7443万6000円。田瀬湖ボート場環境整備事業4795万7000

円。「(2) 競技スポーツの推進」競技スポーツ推進支援事業3307万5000円。スポーツ大会・合宿誘致推進事業746万8000円。花巻ベースボールフェスタ開催事業855万円という、これは先日西武球場で行われた、あの花巻デーの開催という事業でございます。11ページにまいります。

「芸術文化の振興」のうち「(1) 芸術文化活動の推進」芸術文化推進事業36万4000円。芸術文化促進支援事業735万6000円。芸術文化推進支援事業の文化会館に係る分が2377万5000円。美術普及活動推進事業に萬鉄五郎記念美術館に係るものですが、24万円。学校文化活動事業56万円。先人の顕彰、賢治のまちづくり推進事業7765万円。先人顕彰推進事業321万4000円。宮沢賢治普及・啓発事業1140万8000円。12ページにまいります。企画展示事業といたしまして新渡戸記念館企画展示事業516万3000円。萬鉄五郎記念美術館の企画展事業982万円。高村光太郎記念館に係る企画展示事業159万5000円。「(3) 民俗芸能の伝承」民俗芸能伝承支援事業233万9000円。

「(4) 文化財の保護と活用」文化財保護活用事業2374万6000円。2に掲げておりました熊谷家の改修事業については、事業として終わりましたので、これは1のほうに統合いたしました。埋蔵文化財保護活用事業3465万9000円。展示活動事業、これは博物館に係るものですが、1225万9000円。教育普及活動事業218万円。以上でございます。

◎**藤原会長** はい。ただいま事務局から御説明いただきました。このことにつきまして質問、御意見ありませんでしょうか。よろしゅうございますか。はい。中村委員お願いします。

○**中村浩希委員** はい。今説明受けましたけれども、これ前年度と比較して、比較したものを提出できないものでしょうか。事業の案の説明をされても、前年度どれくらいかっているのはわからないし、私の場合だと、そうかっているようなことをちょっと対比しながら見たけれども、説明も早いしちょっとあれだなあと。横に対比して前年度はどういったか、それからそうすれば、ふえれば何かあるのだなという疑問も持つのですが、ふえたか、ふえないかちょっとわからないもので、それから、各項目に成果指標というものはあるのですが、計画に30年度の実績値っていうのはある。これアンケートとった数字っていうわけでは、30年度にアンケートをとった数字ということなのですか。

(「そうです。」の声あり。)

○**中村浩希委員** そうか。そうだな。はい。わかりました。

◎**藤原会長** 今の点について事務局お願いします。

○**岩間教育企画課長** 御指摘がございました事業費について、29年度の当初事業費との比較ということのあったほうが当然見やすいという話だと思いますので、その部分については、対応をさせていただきたいというふうに思います。それからまちづくりアンケートでございますが、例年5月に毎年度実施しているためにこの時期ですと30年度の結果ということで出しているというものでございますので、御了解いただければと思います。

◎**藤原会長** はい。今御指摘いただきましたように来年度からは、前年度との比較がわかるような資料にさせていただきたい。そしてまた、特に新規事業とか、大幅に予算が変わるようなところを重点的に、そこだけ御説明いただければ、前のほうで前年度の審議をしていますので、そんなふうにめりはりをつけていただければよろしいかなと思います。要望ということでお願いしたいと思います。いかがでしょう。そのほか、よろしゅうございますか。それではお諮りいたします。花巻市教育振興基本計画実施計画、平成28年から32年度案につきまして、原

案のとおり決することに御異議ございませんでしょうか。

(「なし。」の声あり)

◎**藤原会長** ありがとうございます。それでは、原案のとおり可決とさせていただきます。以上で、議事を終了させていただきます。真に熱心な御発言、御質問いただきましてありがとうございます。また、進行が不手際で時間が長くなりましたことをお詫びしまして、進行を事務局にお返しいたします。ありがとうございます。

○**岩間教育企画課長** 藤原会長ありがとうございます。それでは次第(3)その他に移りたいと思います。事務局からは、特にございませんが委員の皆様の方から何かございましたら、御発言をお願いしたいと思いますが、いかがでございましょうか。

(発言する者なし)

○**岩間教育企画課長** それでは、特にないということのようでございますので、教育長から閉会の御挨拶を申し上げます。

○**佐藤教育長** 長時間、多くの内容について御審議いただき大変ありがとうございました。さまざまな成果と課題ということ、もう少しこうはっきりした形でお話したほうがよかったのかなというふうに今思っておりますし、先ほど中村委員さんからお話ありましたように、前年度比較というふうなことで、資料の提示についても、今後改善していきたいと思います。非常に項目が多岐にわたりますので、なかなか御説明も不十分だったというふうに思っておりますが、今後もう少し資料の作り方、あるいは御説明の仕方についても、工夫して、さまざま御意見をたくさんいただくような工夫をしてみたいというふうに思います。また、きょう、なかなか限られた時間の中身でございましたけれども、それぞれ疑問に思われた方、それから、なかなかもっともっとたくさん御意見もあろうかと思っておりますので、この後についても、もしございましたら遠慮なく申しつけていただければありがたいというふうに思います。きょうは大変長い時間の御審議大変ありがとうございました。

○**岩間教育企画課長** それでは、以上をもちまして、平成30年度第1回の花巻市教育振興審議会を閉会させていただきます。長時間にわたります御協議ありがとうございました。